



磨いているものは

毎日、教室を見て回ります。どの教室に入っても、目に見えるごみが落ちていることはありません。日頃から、教室や廊下にごみを落とさないように気を付けているからだと思います。決して、担任が口やかましく言っているわけではありません。

きれいな学校である要因の一つに、掃除の時間があると思います。下の写真は、11月のある日の掃除の様子です。とても静かに掃除が始まり、机を動かす音、流しを洗う音、道具を片付ける音がして、また静かに整列し、反省会の声がします。



この掃除も縦割りで活動します。高学年がリーダーとなって計画をたて、低学年の子にも分かるように指示を出しています。6年生が箒で掃く、その後ろを、雑巾がけをしながらついてく子の姿は、とてもかわいらしく、けなげに見えます。時には、雑にやりすぎて叱られる子もいます。

学年が上がると、任される役割も重くなっていきます。流しをスポンジで磨く子。トイレや廊下の床を磨く子。入口のレールや黒板のチョーク受けをきれいにする子。とった草を集めて捨てに行く子。



そういえば、箒の向きが違う子や、雑巾のしぼり方、かけ方が不適切な子をほとんど見かけることがありません。家でもやっている、教えられたことを生かしている、周りを見て学んでいる、ということがあるのかもしれませんが。明世の子の誠実さが表れていると思いました。

この誠実さは、どこへ行っても発揮されるのだと感じました。

6年生の修学旅行でも、バスを降りるときにシートを戻す様子、ホテルで荷物を揃えて置く様子、お世話になった方へお礼を言う姿などから、周りや相手への配慮が感じられました。

掃除は、自分たちの生活に必要なことです。周りの人のためであるし、自分のためでもあります。校舎を磨くこと、縦割り活動が、自分を磨くことにつながっているのかもしれませんが。

